

～乳児期のより健やかな育ちのために/ドロシー・マーレン氏初来日～

## “エミー・ピクラー方式における3歳までの子ども達への育児法”

2015年6月14日(日) 14:00-16:30

エミー・ピクラー博士の人物像について、又ハンガリーのピクラー研究所で発展してきた敬意のこもったお世話法の原理が、どのように人智学における3歳までの子ども達への育児法をより豊かなものにするかお話しします。‘レムニスカートのお世話法“がどの様に4つの内なる感覚を健全な方法で育てるのを見ていきます。敬意のこもったお世話と、それを喜びに満ち流れた親子関係に結びつける子ども達、そして自律性の自己誘発運動や遊びの必要性、それらの間でのバランスについて考えていきます。

真の意味での敬意とは何か、動きと遊びの発達においてなぜ子ども達が誕生直後から大人の介入を受けずに自由である必要があるのか、ピクラー方式から学んでいきます。

**場 所：六甲勤労市民センター**

JR/六甲道駅南接・阪急/六甲駅南へ徒歩8分・阪神/新在家駅北徒歩6分

**参加費：当日払い 3000円**

申込先：レインボーサークル df9wp7@bma.biglobe.ne.jp (雑賀)

締切：2015年6月11日(木) お名前・ご住所・お電話・メールをお書きください。

### **[講師] ドロシー・マーレン**

エミー・ピクラーUK 協会の創設者  
シュタイナー教育による、誕生から3歳までの  
子どものワーキンググループの代表  
20年前から、イギリス・ヨークでシュタイナー教育に  
基づく乳幼児の親子支援を行う。エミー・ピクラーの手法※  
による親子支援グループおよび保育士のための乳幼児期の  
トレーニングコースを運営。



### **※エミー・ピクラーの手法 (エミーピクラーアプローチ)**

ハンガリーの小児科医師エミー・ピクラー(1902-1984)は乳児発達初期からの運動発達を子どもの自由な動きを妨げずに支援する方法を提唱した。子どもが何かをできるようになる前にその動きを手伝わずに、それを待つという保育の方法。まだ座れない子どもに座位の姿勢を取らせたり、手を持って歩かせたりしないなど、子ども存在への尊重と尊厳をもってケアを行うことを重視する。

主催：レインボーサークル